

子どものこころの発達研究センター 日仏交流講演会

日時

2015年

9月9日 水 16:30-19:00

場所

宝町キャンパスA棟3階精神科医局

使用言語：英語

● 16:30～17:10

「Atypical brain auditory processing in young children with autism spectrum disorder」

講師：菊知 充

(金沢大学子どものこころの発達研究センター教授)



● 17:10～17:50

「CD38/TRPM2-dependent oxytocin release and social memory」

講師：東田陽博

(金沢大学子どものこころの発達研究センター特任教授)



● 18:00～19:00

「Is delivery a critical period in the pathogenesis of autism disorders？」

講師：Yehezkel Ben-Ari

(フランス・IMED名誉所長)



Yehezkel Ben-Ari博士

GABA神経シグナルの発達に関わる世界的研究者。出生時期において、細胞内の塩素濃度に応じて、GABAが興奮性から抑制性シグナルに変化すること、出生時のGABAシフトが自閉症や脆弱性X症候群などの精神神経疾患で消失することを明らかにした。最近では、研究成果を生かし、自閉スペクトラム症の臨床応用に向けた取り組みを行っている。

ご予約
お問い合わせ

脳情報病態学

子どものこころの発達研究センター

田村 265-2307

守田 265-2857

子どものこころの発達研究センター

日仏交流講演会

2015年9月9日(水) 16:30-19:00

宝町キャンパスA棟3階精神科医局

参考文献

1. Ben-Ari Y, Is birth a critical period in the pathogenesis of autism spectrum disorders? *Nature Rev Neuroscience* 2015 ;published online July 8.
2. Lozovaya N, et al, Ben-Ari Y, [Selective suppression of excessive GluN2C expression rescues early epilepsy in a tuberous sclerosis murine model](#). *Nature Commun.* 2014 ;5:4563.
3. Tyzio R, et al, Ben-Ari Y, [Oxytocin-mediated GABA inhibition during delivery attenuates autism pathogenesis in rodent offspring](#). *Science*. 2014 ;343(6171):675-9.
4. Marissal T, et al, Ben-Ari Y, [Pioneer glutamatergic cells develop into a morpho-functionally distinct population in the juvenile CA3 hippocampus](#). *Nature Commun.* 2012;3:1316.
5. Lemonnier E, et al, Ben-Ari Y, [A randomised controlled trial of bumetanide in the treatment of autism in children](#). *Transl Psychiatry*. 2012 ;2:e202.

講師紹介

菊知 充 教授

金沢大学医学部卒業後、総合病院精神科を中心に地域医療に取り組んできた。「精神医学」を学びながら多様な人生を学び、「脳とこころ」の研究を通して脳機能の神秘に引き込まれた。6年前から、世界で2-3 台しか稼働していない幼児用脳磁図計（日本では唯一）の研究グループを立ち上げ、自閉症スペクトラム児の認知発達の多様性解明にむけて、脳科学的なアプローチを続けている。

東田 陽博 特任教授

金沢大学COEプログラム「発達・学習・記憶と障害の革新脳科学の創成」のリーダーとして、CD38という蛋白質がオキシトシンの脳内分泌を制御する事をマウスの実験で証明した。CD38を欠損したマウスのオスは相手の記憶を忘却し、メスはストレス下で子育てをうまく行わないなど社会性認識障害を示す事等を見出した。CD38の遺伝子や分子の異常が自閉症の原因の一つである可能性を指摘すると共に、自閉症の治療にオキシトシン補充薬物療法が寄与することを示した。発達障害や自閉症の中核メカニズムを解明し、その治療薬の開発研究などに成果を上げ続けている。

Yehezkel Ben-Ari 博士

Ben-Ari博士は長年にわたりGABA神経シグナルの発達に関わる基本的な機構を明らかにしてきた。すなわち、出生時期において、細胞内の塩素濃度に応じて、GABAが興奮性から抑制性シグナルに変化すること、さらにこの出生時のGABAシフトが自閉症や脆弱性X症候群などの精神神経疾患で消失することを明らかにした。これらの功績は、脳発達におけるGABA神経シグナルの重要性を明らかにしただけでなく、出生との関係を明らかにしたことで、出生という人生最大のストレス時におけるその医学生物学的基盤を提示したという点において、極めてユニークな研究であり、世界的に評価されている。また、最近はその基礎的研究成果をトランスレーショナルに展開するために、NKCC1トランスポーターを阻害することで、Clイオンを調節するブメタニドによる自閉スペクトラム症の臨床応用に向けた取り組みを現在行っている。実際に、その成果をビジネスモデルとするベンチャー企業にも発展しており、基礎研究からのトランスレーショナルへの展開が強く求められている日本の研究環境にとり、Ben-Ari博士はロールモデルとなる研究者であり、かつ華麗なる研究経歴を有している。

夕食会のお知らせ

講演会終了後、Ben-Ari博士を囲んで夕食会を開催します。場所は小立野「小立庵」、会費は3千円です。参加ご希望の方は、子どものこころの発達研究センター・守田(076-265-2857)までご連絡ください。